

八月一九日、突然の宣告。「あなたはコロナの濃厚接触の疑いがあります、十日間部屋から出ないでください。協力してください」と。生きていると色々経験しますね。

私は卒寿も過ぎて死亡適齢期なので何時逝っても惜しくはないのですが、コロナを他人様に感染させることだけは避けたいので「協力します」と、その場

ではつきりと答えました。そして十日間の禁足。

三月に転倒骨折して入院、手術、退院して園の介護室において八月に自室に戻ったばかりでした。まあ暫くは休養の続きかなと思いきやコロナ患者になった気はしませんでした。

でももしかしたら感染してるかなという一抹の不安はなかったとはいえませんが、一日に数回、検温とか配膳と

大分以前の事になりますが、コロナが報じられるとすぐに園内に「空気清浄機」が何台も置かれ、消毒の容器が出入口に沢山目に触れ、職員の皆さんが交替で廊下の手すりや、ポストを消毒してくださるのを毎日みていてコロナのために費用や労力が増えて大変な事だな、職員の方やヘルパーさんが倒れたら私達はどうなるのかなと心細く思ったことはありますが、こんな



食堂でマスクをはずして人と話したことがありました。今、濃厚接触容疑が晴れて、お世話してくださった皆さんに感謝の意を表します。「ありがとうございます」

そして私は幸運であったという思いが強いのです。

## 感染予防に協力しよう

入居者 粕谷ツヤ子

YU ME

ゆめ

### 長寿園理念

「人生の目的は円満幸福の生活にある」との信念に基づき  
高齢者がそれぞれ円満で幸福な生活ができるよう所要の協力と支援を行うことによつて社会に貢献します。

【発行】

一般財団法人長寿会

小田原市入生田 475

TEL. 0465-24-0002(代)

編集 / 広報委員会

空気のきれいな所にコロナはこないだろうなんて呑気な気分が過ぎてきました。外出するお元気な方々も結構いらして、玄関のボードにはコロナの患者数が掲示されていても、緊迫感はありません。園の職員の方々の努力に安心して過ごしていたというのが今迄の私の気持ちでした。

十日間の「禁足」が終わって、ヘルパーさんが「よかったね」と言ってくれて嬉しかった。今、コロナに対する注意力が足りなかったことを痛感しております。食堂でマスクをはずして人と話したことがありました。今、濃厚接触容疑が晴れて、お世話してくださった皆さんに感謝の意を表します。「ありがとうございます」



## 三つの夢 エベレスト、 ナイアガラ、アマゾン見聞記

入居者 岡藤 榮助

福岡県南部に朝倉という地名の所がある。殆どが山と田園の静かな所であるが、数年前、連日のごとくマスコミ上に名前が出たことがあった。それは北部九州地方の集中豪雨で、最大の被害を受けた所だったからである。私はかつてその地に住んでいたことがある。当時住んでいた家のすぐ近くに、谷川から流れ出る巾2m程の小川があり、夏ともなると蛍が飛び交い、その蛍を数えることを楽しみの一つとしていた。ある日、

その小川に転がる大きな石に腰かけて、頭の中に描いた世界地図を見ながら、若し将来、世界一の山、河、滝をすぐ近くで見ることが出来たら、何と素晴らしいことだろうと「夢想」したことがあった。その時私は十九

歳になったばかりであった。所で世界一の山とは勿論エベレスト、河ではアマゾンだが、滝については候補が三ヶ所ある。即ち北米のナイアガラ、アフリカのビクトリア及び南米のイグアスである。さて、それから三十年後、私は上京し、霞が関で働く身となっていた。ある日のこと、突然に海外部門に異動するとの辞令を受け取るようになった。辞令を受け取って部屋に入ると、直ちに課長が

入ってきて、挨拶と同時に予定の話に入った。即ち十日後にネパールに行くこと、その団長であるために政府間協力協定書にサインすること、及び団員の一人に専門家として珍しく女性が入っているので心配りすること等であった。その日から十日後、カトマンズ行き機の機中の人となっていた。

カトマンズに着いてから三日後、現地駐在員から、次の日曜日にヒマラヤ山脈を見るためのフライトに乗ってみないかとの誘いを受けた。前述の婦人は控え目なレディであって、自ら意見を言わないが目が物語っていた。そこで私は団員六人と共にそのフライトに乗ることにした。

カトマンズ空港を離陸して、ヒマラヤ山脈の南側を飛び、エベレストの近くに來るとスチュワードスが乗客を一人ずつコックピットに案内してくれた。そこで念願のエベレスト山を眺望することが出来た次第である。その偉容はあくまでも美しく、雄大というべきものであった。

その時から二年後、カナダのトロントで開催された世界大会に出席した。主催したカナダの機関との間で相互協力協定書に日本側の代表として調印するためであった。用件は簡単に終わり、次の日はニューヨークに行くだけのスケジュールである。供は部下の課長一人。次の日、ナイアガラに寄るべく、早起きしてアメリカ側のバッファロー空港で降り、タクシーに乗換え、再びカナダ側に引き返した。

というのはナイアガラを見るためのベストポジションがカナダ側にあるからであった。滝を見るためのエレベーター入場券を購入すると、大きな雨ガッパを渡された。約四十米降りた所にトンネルがあり、すぐに岩盤上に出た。見上げると、五大湖からの水が轟音と共に落下する様(サマ)は正に圧巻というべきものであった。その時やっと雨ガッパの意味を理解した。

それから半年後のことである。南米のアマゾン河流域への調査団に参加することになった。アマ

ゾン河はオーストラリア大陸ほどの広い流域面積を持ち、しかも赤道直下であることから、広大な熱帯雨林は世界最大の酸素供給地としても有名だが、近年周辺部の乾燥化が進み、砂漠化した場所もあることから、その防止策として、植林、伐採、木材利用、植林というサイクル形成計画が進みつつある。その現地調査、提言を行うための調査団が結成された。団員は日本の森林専門家が主で、派遣元の責任者であった私は団長として参加することになった

S57.12.16 Manaus Amazonas Hotel より



二週間の日程で、行先はサンリス、ベレン、マカパ、マナウスであった。マナウスで団は解散し、日本へ帰国することになったが、私は別の用件でチリへ行くために、更にもう一泊マナウスに残ることにした。夕刻一人でホテルのすぐ近くにある港に行った。港には三千トン級の船が数隻停泊していた。対岸を眺めると、はるか彼方にぼんやりと森が見える。昨日通訳が居た時に土地の人間に、対岸までの距離を聞いてみた。が、乾期では十キロメートル位か、雨期になると、その二倍の二十キロにはなるだろうとのこと。その十年前のことである。一人の友人がアマゾン奥地への調査団に参加し、急病のため帰らぬ人となったことがあった。病名は盲腸炎で手遅れのための死亡であった。その時私が宿泊していたのは、人口百数十万というマナウスではトップクラスのホテルであるが、ポルトガル語以外を理解する人はなく、加えて、道路、鉄道、バスはすべてなく、利用可能な交通手段は飛行機と河口まで千五百キロ離れたベレンへの船便のみである。若し、この地で死んだ友人と同じことが私の身に起こったら、一体どうなるのだろうかと考えている

と、言いようのない寂りよう感におそわれた。

次の日はリオデジヤネイロ經由、チリの首都サンチアゴへ向かった。

その夜は海辺の観光地バルパライソのレストランで久しぶりのフルコースにありついた。海辺に建つレストランから太平洋を見下ろし、この海を真直ぐ行くと、日本の海岸にたどり着くのかなと思いつつ、遠くを眺めると、はるか彼方にぼんやりと江の島や茅ヶ崎海岸が浮いて見えるような錯覚に陥った。

## マイクロバスが 新車になりました

長年親しまれた長寿園の送迎用マイクロバスが新車に入れ替わりました。色はブルー一色で大きくイメージチェンジしました。

皆様ご存じのように新車納入時期は大幅に遅れております。このバスも発注から納車まで半年以上かかりました。市内への皆様の大切な足です。毎日市内を走る送迎バスは長寿園のシンボルのようなものです。どうぞよろしくお祈りします。



## 『コロナ禍での機能訓練』

機能訓練指導員 寺戸 京介

連日感染者の増減に一喜一憂している毎日、なかなか思うように出歩けず、広いとはいえ長寿園の建物のなかだけでは閉塞感を感じながら生活されていることでしょうか。

それでも何とか動き続けたいと体がなまってしまうと危機感を募らせている方も多いのではないのでしょうか。

長寿園機能訓練室では毎日使用する機器、椅子、室内の消毒をして、入退室時の手の消毒とマスク着用をお願いを継続しています。また、おひとり終了ごとに手と器具の消毒をするなど対策をしながら、対象となっていない方の機能訓練を密にならないようになるべく時間でお約束をして行っています。

自主的に動きたい、運動したいという方にはエアロバイクやボールを使った運動、動きが悪

い、伸ばせなくて辛いなどのお悩みの方にはストレッチをお勧めして方法の指導やお手伝いをしています。

辛い症状を相談いただいた方には生活課、健康課と連携しワンチームとしてかかわられるよう実施しています。

また、運動だけではなくご入居者の日常を各課と連絡を取り合い「最近あまりお部屋から出てこられない」「近頃歩いてい姿を拝見しない」「痛くて動けないでいらっしゃる」など、心配事を共有し訪室してお話しさせていただいたり、様子をうかがったりするなどの対応もしています。

訪室してお話を伺うだけで気が晴れ活動的になる方もいらっしゃいます。もちろん訪室時は必ずマスクと消毒を忘れずしながらお部屋の窓を開けて一か

ら二mの距離を置いて対応させていただきます。お待ちしております。

もうしばらく・・・とはいっても先はまだまだ見えません。いつ収束するのか、どういう形に日常が変わるのか想像もつきません。今言えるのは当分続くということだけでしょう。

それでも体は動かさないと動けなくなってしまうものです。今できる体操や催事に積極的に参加していただいて、さらに機能訓練室もつかって頭と体と心を守りましょう。



## ポケット花壇

ロビーやサンルーム前の花壇が常に季節の花で華やかになり、皆様の心を和ませてくれています。これはご入居者Kさんが熱心に手入れをして下さるようになったおかげです。ロビーやサンルームが豪華な趣となりました。長寿園の中庭は代々多くのご入居者によって形作られています。長寿園は各ご入居者の家ですからその庭も当然そうなります。ご入居者が主体となり、ご入居者と職員とで作り上げていくという伝統が、また引き継がれました。



コロナ禍で一度は利用が全面中止になった「カラオケ」。以前は「カラオケ同好会」として活動しており、敬老週間「歌を楽しむタベ」でその歌声を披露していただいております。この度「ひとりカラオケ」という形ではありますが、再開させていただき、ご利用中の皆様に「カラオケを再開し何か生活に変化がありましたか」とインタビューをさせていただきましたのでご紹介いたします。



### 前原 記六様

はじめは、一人じゃつまらないなあ。やっぱり皆でワイワイ歌いたいな、と思ったけど、コロナ禍で外出、話もできなかつたでしょ。だからモヤモヤした気持ちや鬱憤みみたいなものが、一人カラオケで声を出して発散することができたね。

好きな曲  
お富さん 春日八郎  
異国の丘 竹山逸郎



### 古井 啓文様

コロナ禍でカラオケが中止になってから、外に歌いに行く事もできない状況で。やっぱり皆と歌う事が一番楽しいけど一人カラオケを再開してもらって心が晴れやかな気持ちになったね。生活に丸みがおびてきて一人カラオケと言う形でも歌うチャンスを与えてもらい嬉しい。感謝。

好きな曲  
北国の春 千昌夫  
知床旅情 森繁久彌



### 須崎 継之様

生活が明るくなりました。入居してから園内では交流の場が無く、コロナ禍でしゃべる事もあまりできなかつたけど、カラオケを始めてから「カラオケをやっているんだ」と言うと、会話のきっかけになり、話が出るようになって良かったよ。

好きな曲  
男の足跡 三門忠司

### 最後に皆さんから

カラオケがきっかけで皆の「和」がひろがり、心の繋がりになります。歳をとると声が出にくくなります。カラオケで声を出しましょう♪



# 敬老祝賀会

理事長 加藤 伸 一



コロナ禍が始まって二年半になりますが、この二年間は敬老の日に祝賀会を行うことができませんでした。しかし、コロナウイルスとの付き合い方もだいぶわかってきた今年は規模こそは小さくしましたが、祝賀会を行いました。

ところで、長寿園では二年半にわたりご入居者の感染はゼロでしたが残念ながら一ヶ月ほど前、おひとりの感染が判明しました。しかし、それ以上に感染を広げないで済みました。一方、職員は複数人が家庭内感染等により十日間以上休むということも起きましたが、早めの申告等により、ホーム内に感染を持ち込むこともなく、他部署の職

員のクロスオーバー的な応援体制により介護体制も維持継続できました。これも偏に、ご入居者をはじめ身元引受人様のご理解ご協力の賜物と御礼申し上げます。

ご入居の皆様は人生の晩年をコロナ禍による制約だらけの世の中で残念な生活を余儀なくされていることと申します。そんな中、今回このように敬老祝賀会が実施できましたことは本当にうれしく思います。当日は、衆

議院議員牧島かれん様と守屋輝彦小田原市長もお祝いに駆けつけて下さり、全員マスクでしたが三年ぶりにやや華やかな会となりました。昼食は、従来一〇人一室に会しての大会事会でしたが、



それはまだ心配でしたので二部制にしました。厨房二年目のレオックさんも力を入れてくれ、にぎやかなお祝い膳となりました。午後には、アトラクションとして弦楽コンサートを行いました。

介護棟の方も含め約

七〇名の方が参加され、クラシックから現代ポピュラーまで約一時間、歌は歌えませんでした。拍手はできましたので皆様十分楽しまれたようです。職員一同も皆様のお姿をみてほっとする瞬間でした。

敬老の日とは、一年に一度高齢者を敬う日ということであろうと思います。

長寿園では約四割の方が九〇歳以上で



ます。

来年には、状況が好転することを心より祈ります。

八〇歳以上の方も約四割です。改めまして皆様のご長寿をお祝い申しあげるとともに、コロナ禍でもそれなりにうまくご生活されております人生の達人であるご入居者に改めて敬意を表させていただきます



アンサンブル「リーリエ」さん



クリスマスコンサート

バイオリニスト式町水晶さん



クリスマス会食

# 長寿園の日々

新年会



箏・フルート「しらべの会」さん

感染症対策を行いながら実施しました

- 令和3年11月～
- 11月3日 蓄音機を楽しむ会
- 12月22日 クリスマスコンサート
- 24日 クリスマス食
- 1月1日 初顔合わせ
- 12日 新年会
- 3月30日 車窓行楽花見/C棟お花見
- 7月23日 和太鼓演奏
- 9月16日 敬老の日作品展
- 19日 祝賀会 式典/アトラクション



初顔合わせ



車窓行楽/C棟お花見



創作和太鼓 「衆」さん

和太鼓演奏



敬老 作品展・昭和展

## この一年

副園長 加藤 翔

昨年一月に副園長に就任してから、早いもので一年が経過しました。コロナ禍ということもあり、園内の感染防止対策のさらなる徹底に努めるとともに、対策をした上で実施でき

る催し物等はないか模索した一年となりました。感染防止対策強化の一つとしては、園内の主要箇所<sup>①</sup>に病院などでも使用されている抗ウイルスHEPAフィルタ内蔵の高性能空気清浄機を一台設置しました。また、感染防止対策を講じた上での催し物の一つとしては、二年ぶりに大ホールでコンサートを開催しました。こちらはコロナで鬱屈とした気分を晴らすようなコンサートとなりご入居の皆様から大変好評でした。

園内での出来事とは別に、この一年、新たな気付きもありました。

長寿園は立地上、風光明媚な自然に恵まれた環境の中にあり、このコロナ禍において都心にお住まいの方々から特に注目を集めています。清浄な空気の中で過ごす日常は、都会の生活とは違った安らぎ、魅力を感じるようです。

コロナ禍三年目を迎え、私たちの生活スタイルはコロナ前から大きく変わりました。コロナとの共生が強いられる中ではありますが、園にご入居の皆様が快適な毎日を送れるよう引き続き様々な取り組みを行なっていくと思えます。



## 敬老の日「昭和展」

昭和時代は六三年間続いた。ご入居者の方から昭和展で集まった展示品は、この機会がなければお目にかかることのできなかった進駐軍のカルタやスカーフ、戦時中の奉公袋、昭和初期の絵葉書と歴史的な物でした。

職員が出した物は昭和中期から後期の物であり、今となれば九六歳から三四歳までが昭和生まれでくられてしまうが、一言に昭和懐かしい物と言っても世代間では思い描くものにギャップのある展示になりました。

相談課課長 佐藤



10月21日付で人事異動がありました。

よろしくお願いたします。

ABD 棟生活課課長 椎野浩行(前 C 棟生活課課長)  
 C 棟生活課課長 北村富美江(前 ABD 棟生活課課長)

### 編集後記

夏の始め頃、久しぶりに猿が長寿園のベランダに出ました。猿は親子でゆっくりと園の周りを移動していたのですが、そのうち小田原市の『猿追い上げ』担当の方が猿の首に着けられた発信機の信号を追って現れ、逃げた猿と共に去って行きました。長寿園近辺の猿の群れは二つ確認されていて、そのうちの一つは除去が完了したそうです。今日の猿は残った群れの猿とのこと。被害があるから除去するのですが、私から見ると「かわいいお猿さん」。私達には見えないところで除去してくれて、見たくないところを見ないで済んでいることを認識しました。

『夢』の発行を『定期的に』できるようにしていく予定です。